

August 2004



おもな記事 総会報告 (2p) / 倶登山川
踏査 (4p) / 川村洋司「調査を終えて」(5p)
/ 玉井秀樹「称賛に値する仕事」(6p)

尻別川の未来を考える
オビラメの会

オビラメの稚魚たち、 この秋にも一部を放流へ

オビラメ
通常総会
2004
Part 1

「尻別川の未来を考える オビラメの会」は2004年度通常総会を6月12日、ニセコ町民センターで開き、当会と北海道立水産孵化場が今年、人工孵化に成功したオビラメの稚魚たち約6000匹のうち約4000匹を、今秋と来春、数回に分けて尻別川水系に放流する方針を固めました。

当会の「オビラメ復活30年計画」(2001～2030年)は、2010年までに①放流種苗の確保、②再生産拠点の探索、③釣りの制限、――の3つの課題をクリアすることを目指しています。昨年、今年と続けて人工孵化に成功し、①の種苗確保に一定のめどが立ち、また②のために昨年「重点河川復活プランをつくろう！」事業

を進めて、イトウ稚魚を安全に放流できる場所の探索を続けてきました(本紙4～5ページに関連記事)。

総会で、北海道立水産孵化場の川村洋司さんは「昨年に比べると今年の稚魚数は多く、全部を親魚まで育てなくても種苗確保の目的は達せられます。また、稚魚たち全部を孵化場でこのまま飼育し続けることは物理的に不可能。4000匹以上は放流向けということになるでしょう」と説明しました。また川村さんは放流時期について、「秋に放流すると、冬を越せなくて大半が死ぬことになるかも知れません。でも長く飼えば飼うほど、今度は逆に、放流後に人間に釣られやすくなります」と解説。ほかの会員同士でディスカッ

ションした結果、今秋と来春と、2度以上に分けて放流する方針が固まりました。

放流地点の第1候補は「重点河川プラン」で選んだ倶登山川(倶知安町)です。親魚の遡上を妨げる堰堤など、すでに問題点が明らかにされていますが、総会では「これから放流する稚魚が親魚になって帰ってくる7～8年後までに問題を解決し、放流地を再びイトウ繁殖地として復活させよう」「初回の放流に合わせてマスメディアなどとも協力しながら、地元の人や釣り人たちに『オビラメの会は何のためにイトウ放流をしているのか』をしっかりとアピールしていこう」といった意見が交わされました。(文・平田剛士)



稚魚たちが「里子」に出ています

豊平川さけ科学館と千歳サケのふるさと館へ

今年5月に採卵と人工授精に成功したオビラメの発眼卵は北海道立水産孵化場(恵庭市)で飼育されていますが、約6000の発眼卵の中から、札幌市豊平川さけ科学館と千歳サケのふるさと館に、それぞれ約200粒ずつを委託して育てて

もらっています。分散飼育することで、伝染病発生時の被害を最小限に食い止めるための措置です。「里子」たちはすでに浮上し、さけ科学館では7月末から一般公開されています(左上の写真)。サケのふるさと館の稚魚たちも「とても元気に育っていますよ」と、学芸員の菊池基弘さん(右)。こちらも近く展示水槽に移される予定です。(文と写真・平田剛士)



「尻別川の未来を考える オビラメの会」の通常総会（2004年6月12日、ニセコ町民センター）は、会員約20人が参加。挨拶に立った草島清作会長は「みなさんのご協力で今年もイトウの人工孵化に成功しましたが、まだまだ山積している問題を解決していくために、もう一度初心に戻って、地域のみなさんに支持される団体を目指して、会の運営を進めていきたいと思っています」とスピーチしました。続いて議事を開き、事務局案に修正を加えて、新年度の予算や事業計画などを決定しました。

2003年度活動報告

当初計画	評	成果
1 イトウ親魚と稚魚の飼育と人工繁殖 繁殖計画／親魚分散飼育の実施／餌の確保（春と秋）／稚魚飼育施設の準備	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ △ ◎	2003年春の人工孵化稚魚の飼育（約50匹、道立水産孵化場） 餌の確保（随時） 飼育全個体を健康な状態で飼育 尻別川で新たに幼魚捕獲 人工授精に成功 2004年春人工受精卵の管理（約1万2000、道立水産孵化場） 親魚の分散飼育はできなかった 稚魚分散飼育の準備をすすめた
2 オビラメ復活30年計画	◎ ◎ △	倶登山川をオビラメ復活重点河川に選んだ 倶登山川に関する要望書を倶知安町、後志支庁、小樽土現に提出し、それぞれ回答を得た 「尻別川流域堰堤マップ」は完成できなかった
3 会報発行（年6回程度）	○	会報第15号～18号を発行した（年4回発行）
4 オビラメ勉強会（年6回程度）	◎	「われら遂に人工授精に成功セリ！」（6月14日）、「南限のイトウ」復活のためにいま、必要なこと（7月30日、札幌）、「オビラメ復活「重点河川」視察会」（9月7日）、「重点河川」復活プランをつくろう！」（9月7日）、「同パート2」（12月13日）などを開催した。
5 自治体、学校等各団体への資料配付／各首長、議会への働きかけ強化、「しりべつリバーネット」などとの連携維持	◎ ○	「倶登山川環境復元要望書」を倶知安町、土現、後志支庁に提出した（11月） 関係機関などに資料を配付するなどし、理解と協力を呼びかけた
6 ホームページ更新	○	ホームページを随時更新した。開設以降のアクセス数2万3000
7 Tシャツ、ステッカー等の製作・販売	○ △ ◎	Tシャツの販売を継続した ステッカーは作成していない 新しいリーフレット1万部を作成、配布した
8 サポーターの拡大	○ ○	サポーターの拡大に成功した マスメディアへの取材協力（随時）
9 小中学校、高校そのほかの教育団体への講師派遣	◎	北海道工業大学環境デザイン学科・柳井清治教授のゼミに協力した（5月）
10 イトウ保護連絡協議会への協力	◎ ◎	南富良野で開催されたイトウ保護フォーラムに参加した（10月） イトウ保護連絡協議会にインターネットサーバーを提供した



スピーチする草島清作会長（右）

評価のみかた ◎よくできました ○まあまあ △もっとがんばりましょう

会員数

59名 (2004年6月12日現在)

役員

代表	草島清作	俱知安町北5西34-21
副代表 (事務局長兼任)	吉岡俊彦	ニセコ町富士見町65
事務局次長	高橋秀邦	俱知安町南10条東1丁目
理事	山本契	ニセコ町字富士見
理事	加藤清三	京極町字京極211
理事	玉井秀樹	大阪府高槻市安満御所の町3-8
会計	阿部英治	俱知安町南3西2-13
幹事 (調査・研究)	末廣圭司郎 / 河野裕司 / 城座研一	
幹事 (広報・宣伝)	平田剛士	
会計監査	山本契 (理事兼任) / 竹内聖	

オビラメ
通常総会
2004
Part 2阿部英治さん
会計に就任**2004年度収支予算****新年度予算は約276万8000円****収入の部**

会員会費 (目標100名)	200,000円
企業寄付・助成金・賛助会員会費	700,000円
前期繰越金	1,867,904円
合計	2,767,904円

支出の部

イトウ飼育費	1,100,000円
飼育池賃貸費・管理費	150,000円
調査・研究費	300,000円
イトウ保護連絡協議会派遣費	100,000円
オビラメ勉強会	100,000円
オビラメミニフォーラム (札幌圏)	150,000円
ニューズレター・ホームページ	120,000円
通信費	70,000円
会議費・交通費	100,000円
事務費	80,000円
予備費	300,000円
小計	2,570,000円
次期繰越金	197,904円
合計	2,767,904円

**【継続事業】****2004年度事業計画**

- イトウ親魚・稚魚の飼育と人工繁殖 繁殖計画/稚魚分散飼育の実施/餌の確保 (春と秋) /ほか
- オビラメ復活30年計画/俱登山川を新たな「繁殖河川」として復元するための計画立案と各種調査活動
- 広報活動/ニューズレター発行 (年4回程度) /ホームページ更新
- オビラメ勉強会 (年6回程度)
- 自治体等各団体への資料配付/各首長、議会への働きかけ強化、「しりべつリバーネット」などとの連携維持
- Tシャツ等の販売、リーフレットの配布
- サポーターの拡大/新規会員の獲得、既存会員の継続、助成団体等への援助申請など
- 小中学校、高校そのほかの教育機関への講師派遣
- イトウ保護連絡協議会への協力 (総会に6名派遣予定)

【新規事業】

- ジュニア会 (仮称) の設立
- オビラメミニフォーラム (札幌圏)
- その他

**放流計画実施と
環境教育を重視**

高性能GPS装置を駆使して踏査

「オビラメの会」は7月25日、昨年から続く『重点河川』復活プランをつくろう！の第3回踏査会を開きました。重点河川の1本に選んだ尻別川支流倶登山川の、さらに支流であるA川とB川を、12人の参加者たちが本格的に踏査し、今秋にも放流予定のイトウ稚魚たちが無事に生育できるかどうか、可能性を調べました。

A川(図①)では、(株)野生生物総合研究所(本社・札幌)と北海道工業大学・柳井清治研究室の協力で、高性能の「全地球無線測位システム(GPS)装置」を初めて使用し、川村洋司さん、江戸謙顕さんの両イトウ研究者が川を遡行しながら、「このボサの下に稚魚生育可能」「ここから3mは砂利底なので産卵可能」などと判定を下し、その正確な位置を記録しました。GPSでの集計によれば、踏査した960m区間のうち、延べ182m分の産卵可能環境が確認されました。

(文と写真・平田剛士)



A川を遡行しながらイトウの生息に適した環境を探索する一行(1)

GPS装置を用いると環境情報をごく正確に記録できる(1)



高さ1m余りの堰堤を前に「ここをどうにかしないと」(3)

踏 査 を 終 え て 川 村 洋 司

俱登山川水系で問題なくイトウの再生産に使える支流はもはや存在していません。下流部の河川改修と中流域の堰堤の建設によって、上流の産卵場所への通路が遮断されており、加えて周辺の耕地化による土砂流入によって産卵環境が喪失しています。少しでも可能性の残されている河川の探索とその評価。これが今回の調査の目的でした。

俱登山川の本流には、北9線沿いに高さ1.5m前後の堰堤が3基設置され、イトウの遡上は不可能です。しかしその上流域には比較的良好な環境が保たれています。

A川は、この本流の3基の堰堤のうち最下流の1基目の堰堤の上流に流入しており、最下流の堰堤さえ改良できれば、とりあえず親魚の遡上が可能になります。

川幅2～5mほどの小河川で、合流点から1kmあまりは畑の中を流れる改修河川。うち約50%は3面護岸されています。しかし遡上を妨げる段差等はなく、水深も比較的事あることから、改修区間でも親魚の遡上に問題はないでしょう。より上流の約1kmは崖に沿って流れて、兩岸（特に左岸側）に河畔林が発達していて、鬱そうとした様相です。落差も少なく、崖に沿って蛇行が見られ、瀬と淵が分化していて産卵に適した砂礫底も随所に見られます。

右岸側が畑のため多少の泥の流入堆積が見られますが、数十個程度の産卵床の造成が可能でしょう。河岸地形も複雑で、稚魚の棲息環境となる浅いワンドや植生のカバーも備わっています。7月は渇水期で水量も少なかったのですが、産卵期の春はずっと水量も多いと考えられるので、よりすばらしい河川環境だと考えられます。現時点では稚魚の放流候補河川No. 1でしょう。出来るだけ早い機会に堰堤の改修を実現しなければなりません。

俱登山川の本流上流部は調査しませんでした。昨年よりだいぶ河川状況が良くなってきているようなので、今後の推移に注目したいと思います。ただし、3基目の堰堤の改修が必要条件になります。

B川は、それらの3基の堰堤よりずっと下流の本流に流入する河川で、イトウの遡上に堰堤等の物理的障害はありません。川幅は下流でも5～6m、上流に行くと1m前後の小河川ですが、下流部の一部を除いて蛇行の発達した良河川です。

底質はかなり上流まで、基本的に粘土からなっており、いわゆる瀬はほとんど見られませんが、随所に大きく掘り込まれたようなエグレ状の淵が発達していて、河畔林が覆い被さり、幼魚の棲息には極めて好都合な河川です。

産卵環境となる砂礫底の瀬は上流部に少し見られるだけです。この部分は湿地帯を流れる河川のように大きく蛇行し、ボサが川面を覆って上からは滞筋が全く見えません。所々に小さな瀬があって産卵も可能かもしれませんが、多くは期待できないでしょう。稚魚を放流して幼魚まで育てるだけなら極めて有効な河川かもしれません。

以上、調査の結果を簡単にまとめてみました。当面A川を中心に、目前に迫ってきた稚魚の放流河川の絞り込みが、今後本格化する予定です。皆さんのさらなるご協力をお願いします。

(かわむらひろし オビラメの会、北海道立水産孵化場)



出発前に打ち合わせをする参加者たち（撮影・平田剛士）

いんふおめーしょん

札幌市豊平川さけ科学館開館20周年記念 さっぽろ・サケ月間

2004年9月4日～26日

【シンポジウム「もっと知ろう！考えよう！サケのこと・札幌の自然のこと」】

24日午後6時半～札幌市男女共同参画センターホール（札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3階）

基調講演／C.W.ニコル氏『森と海をつなぐもの』 事前申し込みが必要です。

問い合わせ 札幌市豊平川さけ科学館 札幌市南区真駒内公園2-1 電話011-582-7555

2004北海道イトウ保護フォーラム in あっけし

日程決定！

「チライの里 別寒辺牛川流域の将来を考える」（仮）

11月20日（土） 別寒辺牛川砂防ダム視察／イトウ保護連絡協議会総会

11月21日（日） 2004北海道イトウ保護フォーラム in あっけし

会場 ネイバル・道立厚岸少年自然の家ほか

主催＝イトウ保護連絡協議会

主管＝別寒辺牛川流域イトウ保護連絡協議会（厚岸自然を守る会・ウォルトンズクラブあっけし）

いんふおめーしょん

玉井秀樹

地球に生命が誕生してから今日までの間に、5回の大量絶滅があったそうだ。そして今、実は我々は人為的な影響が原因で6度目の大量絶滅の入り口に立っているということをほとんど自覚していない。世界中に生息する鳥類の12%、哺乳類の24%、魚類の30%が絶滅に瀕している。種の絶滅を回避するために各地でさまざまな活動が行われているが、ことイトウに対して人類が「とるべき行動」と「実際にとっている行動」のギャップはあまりにも大きい。河川を改悪する公共事業。産卵期の釣行。移入種を擁護し「有効利用」しようとする言動。あるいは、無関心。挙げれば、否定的なりストは延々と続いてしまう。

すでに1千万年もの間、連続と世代交代を繰り返してきたといわれる

イトウがこの先も安心して生息できる自然環境の保全や復元を行うことが、人類に求められている。

一般の方々だけでなく、地方自治体や政府機関にお勤めの方々にも、是非イトウを守る活動にかかわっていただきたい。一旦失われてしまっ

絶滅した種を蘇らせることに比べれば、難しいことは言えない。もちろん、さまざまな障害はあるだろう。しかし、収入につながるかどうかに関係なく、既成概念にとらわれず、草の根環境団体や地域住民、そして行政がしっかりと手をつなぎ、物言えぬ生き物や未来の人たちから賞賛されるような仕事にかかわることは誰にでも可能なはずだ。

絶滅してからでは遅すぎる。やるのは、今しかない。

賞賛に値する仕事 行政機関へお勤めの皆様へ

たイトウの生息に適した環境を復元していくという仕事に、立場や所属の垣根を飛び越え、みんながもっと積極的であってもいいと思う。

例えば、イトウの遡上を阻む全てのダムや堰堤を、撤去もしくは遡上を妨げない形状に改修する。これは、

たまいひでき オビラメの会理事、
パタゴニア大阪勤務。環境問題などをテーマに「フライの雑誌」などに積極的に寄稿している。

巻末コラム

「オビラメの会」は新入会を歓迎します

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、会費と寄付金などで運営される市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電

話番号を明記のうえ、入会希望と書き添えてお振り込み下さい(手数料はご負担願います)。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末(5月)までです。概ね1月以内に会員証とニュースレターをお届けします。

■年会費2,000円

■郵便振替02720-9-11016

■加入者名「オビラメの会」

オビラメ勉強会「オビラメ稚魚放流のための作戦会議」のご案内

とき 2004年9月4日(土曜)午後3時~

ところ オビラメの会事務局・レストラン「ライズ」

お問い合わせ 電話 0136-44-2472 (吉岡俊彦事務局長)

この秋にも予定する初放流のための準備勉強会です。どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえ振るってご参加下さい。

「オビラメの会」ニュースレター 第19号(2004年8月発行)
OBIRAME Newsletter No.19 August 2004

- 発行 ■ 尻別川の未来を考える オビラメの会
- 編集 ■ 平田剛士
- 印刷 ■ クリエイト・M (北海道滝川市緑町5-3-5)
- 発送 ■ 吉岡俊彦/石崎秀典
- 郵便振替 ■ 02720-9-11016 加入者名「オビラメの会」
- オビラメの会事務局 ■ 北海道虻田郡ニセコ町富士見65「ライズ」内
吉岡俊彦 方 〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472

水と空気、みどりの大自然
ニセコが好きだ
楽しんだあとは川を語ろう

御食事処・酒房

ライズ

ニセコ町富士見65 TEL/FAX 44-2472
Email /itou110@estate.ocn.ne.jp

<http://homepage3.nifty.com/huchen/Obirame/index.html>

「オビラメの会」ニュースレター第19号 2004年8月発行